



# 人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第12回



国際線航空会社乗務員・作家  
**黒木安馬**

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て航空会社に入社。業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させる。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰している。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博して乗務の間をぬって全国を飛び回っている。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail: kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

「三匹のタイ」が人の心には棲んでいる。誉められたい、認められたい、お役に立ちたい、である。

全世界の人類統計比率を人口1000人の村に縮小してみた。その村には、アジア人57人、ヨーロッパ人21人、南北アメリカ人14人、8人のアフリカ人となる。52人が女で男は48人。70人が有色人種で30人が白人。30人がキリスト教で70人はそれ以外の宗教。6人が世界中の富の59%を所有し、その6人全員はアメリカ国籍。80人は劣悪な居住環境に住み、70人は文字が読めない。50人は栄養失調に苦しみ、一人は瀕死で、今また一人が生まれようとしている。たった一人だけが大学教育を受け、その一人だけがコンピューターを持っている、と。

農業の技術とは人間が生きるための諸々の技術。その技術は百ほどあるから百姓という。それを活かすための手道具は数え切れない。世界中どの国の農民も講義や理論だけでは動かない。実物を見せると心が動く。農民とは長年の試行錯誤を繰り返して重ねた経験的人間であるから頑固である。実際を見せないと承知しない人種である。もし水さえあれば多くの人の命が救えるのに、発展途上国では飲み水すら満足に得られず命を落とす人々が絶えない、何とかしたい、そうだ井戸掘り技術だ。明治39年生まれの中田正一。農学博士は農林省技官を退職後、ボランティア援助活動で孤軍奮闘していたアフガニスタンの荒涼たる砂漠でそう決心した。ODAで一千万円もかけ

て掘った井戸も数年でダメになる現実。日本政府が考える援助とは大金をかけて機械や物を送り込むが、モノは壊れるもの、それを修理する部品も技術も現地には何も無い。彼らが望んでいるのは食べてしまえば直ぐに無くなる魚そのものではなく、魚を捕る網の作り方なのだ、それも材料は現地に於けるものを使って。中田さんは帰国後に房総半島にある大多喜町に「風の学校」を作った。学校といっても本校があるわけではなく、生徒が存在するところ世界中がその分校になる。海外での農業協力や奉仕活動を志望する者なら誰でも入校できる。ただし自活学習しかない。プロはまず不可能な点を数え上げるが、素人は可能なことしか知ろうとしない。機械を使わない手掘りの井戸掘り技術を探した。千葉県に残る伝統的原始的「上総掘り」があった。中田翁は80歳をはるか過ぎてからも独りで異国の荒地を回り続け数年前に亡くなったが、アフリカやフィリピンなど世界中に風の学校の生徒は散らばり、日夜現地の人々と汗を流して大地に向かって掘り続けている。我が家にも何度か来ていただいた永遠の万年青年である。

中田正一著、岩波新書「国際協力の新しい風——パワフルじいさん奮戦記」は、活きるこの意味を、お役に立ちたいとは何かを、深く考えさせられる感動の一冊である。

「風の学校」はすべて寄付金で何とか運営されている。  
連絡先・中田章子(故中田先生の奥さん)  
0470(8)2515  
郵便振替・00170(7)120537